

I

1. 下線部直後の英文に出てくる3つの要素が、問われている理由の主要部分である。解答では、特に前半の2つを正しく理解できているか否かで差が見られた。1つめの要素“I was highly mobile”に出てくる形容詞の“mobile”は、人について述べる用法で、“able to move or travel around easily”という意味を表す。具体的には、主語の書き手(I)がオートバイであちこち動き回ることができたことを述べている。2つめの要素“had excellent visibility”は、第1要素と同じく書き手(I)を主語に取っており、書き手がオートバイで周囲を良く見渡すことができたことを述べている。
2. 下線部(2)の3つの文を和訳する問題であるが、各文とも文法構造はシンプルであり、語句の意味と文脈の正しい理解に基づき、何と何の関係について述べているのか、何と何が比較されているか等を含め、的確に理解し自然な日本語訳がなされているかを評価した。また、第1文と第3文には、aを伴わないlittleがあり、各文中での文法的役割を正しく理解した上で、文脈に沿った否定的ニュアンスが適切に訳出されているかも重視した。
3. 文脈に応じた適切な和訳ができているかどうかを評価した。第1文では“wearing down”や“settle for less than the best”の意味が理解できず、文全体の訳に苦勞していると思われる解答がみられた。第2文では、“rather”について程度を表すように訳出できているか、“became skilled at”について「技能」と名詞として訳出せず、「～がうまくなる/～に長ける」などと訳出できているかを評価した。また、“game”を「試合」と訳している解答が多く見られたが、たとえば「駆け引き」のように、語が使用されている文脈に応じて適切に訳すことが重要である。
4. この段落の“everyone has his own standards for hotels”以降の文脈を把握したうえで、ホテル選びの基準として安値を最重要視する学生に対して、筆者のやや批判的な見方をまとめることが求められる。“went too far”を文字通りに「遠くへ行ってしまった」と理解している答案が目立った。また、“They made it an end in itself.”の文において、“it”の指示内容と、“end”の意味の理解が十分ではなく、「旅を終わりにしてしまった」と捉えている解答が見られた。
5. 全体的によくできており、多くの解答は文章の意図することがつかめていた。しかし、過去形で書かれている文を現在の時制で訳しているもの、“east”と“west”を勘違いしていると思われる解答、また“streaming in”という状況を正しく表現できていない解答などが見られた。

## II

標準的な英語の文法を用いて書かれているか（文の構造、動詞の時制、数の一致、定冠詞と不定冠詞の使い分けなどが主なポイントである）、適切な語彙やイディオムを用いて表現しているか、文章構成が適切であるか、スペリングなどの誤りがないか、という観点から総合的に評価した。